



環境省 ESG金融ハイレベル・パネル

インパクトスタートアップを 支える資金のあり方

投融資(インパクト投資)と

patient capitalの両輪

READYFOR株式会社 代表取締役CEO /インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良はるか

一般社団法人インパクトスタートアップ協会

「社会課題の解決」と「持続可能な成長」を両立し、ポジティブな影響を社会に与える
「インパクトスタートアップ」のエコシステム構築を目指し設立された非営利型一般社団法人

(2022年12月設立)



HERALBONY



協会理事



アストロスケール
創業者兼CEO

岡田 光信



株式会社カケハシ
代表取締役社長

中尾 豊



ライフイズテック
代表取締役CEO

水野 雄介



READYFOR
代表取締役CEO

米良 はるか



ヘラルボニー
財務戦略顧問

星 直人



ヘラルボニー
最口執口責任者 COO

曾根 秀晶



五常・アンド・カンパニー
経営企画部長

田中 はる奈

正会員

325社

賛同会員

15社

監事



KIBOW社会投資ファンド
インベストメント・プロフェッショナル 公認会計士

五十嵐 剛志



外国法共同事業法律事務所
リンクレーターズ
マネー・ジャング・アソシエイト 弁護士

渡邊 貴久

2026年2月時点

協会を支える賛同会員として 15社の日本を代表する企業が参画

Platinum



三菱UFJモルガン・スタンレー証券

Gold



インパクトスタートアップとは

社会課題の解決を「持続可能な成長機会」として捉える

社会課題の解決を「**持続可能な成長機会**」として捉え、
社会に**ポジティブな影響**を与えるスタートアップ

Feature 01

強い意志の組み込み

創業の背景や企業の存在意義に「社会へのポジティブなインパクトを与えたい」という意志が強く組み込まれている。

Feature 02

具体的ソリューションの実装

解決を目指す社会課題が具体化されており、サービス提供を通じてポジティブ・インパクトの創出を実際に行っている。

Feature 03

インパクト指標の管理

目標とするパフォーマンスにインパクトに関する指標がある、または数年以内に策定しようとしている。

Feature 04

成長志向の経営

社会課題解決を目指すスタートアップとして、持続可能な拡大を見据えた成長志向を持った経営を行っている。

インパクトスタートアップの成長事例

最先端技術 × 食料問題

リージョナルフィッシュ株式会社

高温耐性品種を作出

高温でも生存できる特性の開発に成功し、横展開を進めている

高温耐性マサバ



高温耐性

関西電力

滋賀県

DNAサオス

フリン

高温耐性ヒラメ



高温耐性

高成長

高温耐性サーモン



高温耐性

高温耐性マガキ



高温耐性

貝柱増大

Regional Fish 守邦海産 目的外利用・書き換え禁止

© 2025. For information, contact Regional Fish Institute, Ltd. 17

ゲノム編集技術を活用した品種改良により、短期間で高成長かつ高温耐性を備えた新魚種を開発。

- ✓ 累積資金調達額：約86.7億円
- ✓ 高温耐性マサバ・ヒラメ等の開発に成功
- ✓ 気候変動下での持続可能な養殖を推進

公共調達 × 災害支援

WOTA株式会社



自律分散型水循環システムを展開。能登半島地震では避難所の断水対策としてシャワーや手洗機を提供。

- ✓ 避難所の衛生環境向上に大きく貢献
- ✓ 複数の自治体で上下水道代替システムを展開
- ✓ カリブ海諸国など水不足の海外市場へ進出

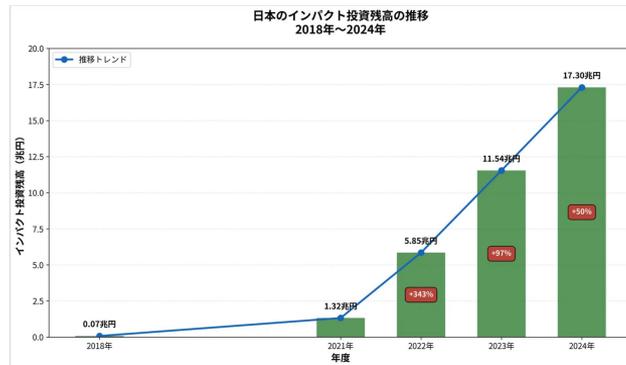
投融资の現状

インパクト投資は急拡大しているが、インパクトスタートアップへの流入は限定的

日本のインパクト投資残高(2024年)

17.3兆円

2018年比 約240倍の成長



ISへの資金流入を阻む 3つの壁

上場株・大企業偏重

既存の金融枠組みでは、流動性の低い未上場スタートアップへ資金が届きにくい。

価値評価の未成熟

財務以外の「インパクト」を定量化し、投資判断に組み込む手法がまだ途上。

目利き人材の不足

社会課題の深さと事業リスクを同時に判断できる専門人材が圧倒的に不足。

出所: SHIF「日本におけるインパクト投資の現状と課題 2024年度調査報告書」より作成

深い社会課題と資金のミスマッチ

社会課題が深いほど「投融資だけでは届きにくい」

投融資の限界

実証・検証コストの重さ

収益化前の現場実証に大きなコストがかかる。

時間軸の不一致

投資家の短期志向と長期実装の乖離が大きい。

投資適格性の壁

初期段階では一般的な審査を満たしにくい。

ギャップの具体例

地方の医療・介護

制度化 10年～

エビデンス構築～報酬改定(制度化)までに時間がかかる。

教育格差の是正

追跡調査 10年～

効果の可視化に数年を要する。

防災・減災技術

公共実装・規制緩和 10年～

公共接続や意思決定に時間がかかる。

THE SOLUTION

Patient Capital (長期・譲許的な資金)

投資適格になる前の「死の谷」を埋め、
挑戦を可能にする資金が必要

patient capitalとは

土台づくりに効く長期・譲許的な資金

Patient Capital

短期回収を求めない

長期視点で社会的インパクトを重視し、じっくりと事業を育てる

失敗を許容する

実証・検証段階での試行錯誤を支援し、挑戦のハードルを下げる

柔軟な用途

人材育成、現場実装、制度連携など、事業の「土台づくり」に活用可能

主な資金源

個人・富裕層の寄付

企業財団・公益財団

公益信託

制度の追い風

公益信託法の改正（2026年）

受託者範囲の拡大など資金の厚みが増すことが期待される。

税制優遇措置の拡充も寄付促進の後押しに。

READYFORの実装

大口寄付を Patient Capitalへ変える「ゲートキーパー」

ROLE & POSITION

ソーシャルセクターと 寄付者のゲートキーパー



累計調達額

500億円超

プロジェクト数

3万件超

大口寄付を支える信頼とノウハウ

3万件超のクラウドファンディングで培った審査・伴走ノウハウを基盤に、**富裕層寄付、遺贈寄付、企業・財団資金**などの大口資金を社会課題へ最適に分配。

Patient Capitalの有力な財源

短期的なリターンを求めない大口寄付は、インパクトスタートアップが「死の谷」を越えるための**譲許的な資金資金 (Patient Capital)**の核となる。

信頼のゲートキーパー

寄付者には「確かなインパクト」を、ソーシャルセクターには「挑戦のための資金」を。双方の信頼を担保し、**資金循環のハブ**として機能する。

まとめ

投融資(インパクト投資) + patient capitalの両輪で市場をつくる

投融資 (インパクト投資含む)

インパクトスタートアップの成長・スケールを加速する資金

- 上場株・大企業だけでなく、スタートアップへ
- インパクト評価の標準化で投資判断を支援

+

Patient Capital (寄付・財団資金等)

深い課題領域の実証・立上げを支える資金

- 失敗を許容し、長期的な視点でインパクト追求
- 投融資への橋渡しとして機能

インパクト投資、Patient Capitalを広げていくために

両輪が循環する制度・市場設計を推進

インパクト測定・マネジメント(IMM)の標準化

官民連携による資金供給の仕組みづくり

富裕層寄付を Patient Capitalとして実装

金融セクターの皆様との協業が重要

深い社会課題に挑むインパクトスタートアップを
支える市場づくりにご協力よろしくお願いします